

令和 7 年 度

運営に関する計画

大阪市立塚本小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「大阪市小学校学力経年調査」の児童アンケート「学校のきまりを守っていますか」の項目に肯定的な回答をしている児童の割合は、令和 5 年 92.5%、令和 6 年 91.5%と高い水準を保っており、子どもたちが前向きに学校生活を送っていることがうかがえる。校内アンケートでも、学校での学習は楽しく充実していると感じている子どもが多い。一方で、コロナ禍の影響も考えられるが、基本的な生活習慣の確立に課題のある子どもが増える傾向にある。

学力に関しては、令和 6 年度「全国学力・学習状況調査」では、国語の平均正答率が 69%で、大阪市平均を 3 ポイント上回り、全国平均も 1.3 ポイント上回った。算数の平均正答率は 66%で、大阪市平均を 4 ポイント、全国平均を 2.6 ポイント上回った。また、「大阪市小学校学力経年調査」の結果では、学年が上がるにしたがって、学力上位層の割合の伸びが減る状況にある。国語科・算数科の研究を核に、話や文の内容を理解し、根拠や理由を明確にしながら、論理的に考える力を育てていきたい。

また、教職員の働き方を考えることで、子どもに関わる時間、教材研究や授業準備の時間を確保するとともに、デジタル教材や一人一台端末等の活用を通して、子どもたちの意欲の向上や基礎・基本の定着を図る必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ・校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に肯定的に対して答える児童の割合を全学年 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれに学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・デジタルドリル等のデジタル教材を活用した授業を毎日実施する。
- ・ゆとりの日を週に 1 回設定するとともに、各教職員が週のうち 1 日は定時退勤する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・令和 7 度末の児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に対して肯定的に答える児童の割合を全学年 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれに学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 53.9%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- ・ゆとりの日を週 1 回設定する。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立塚本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

年度目標

(1) 【安心・安全な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
(R4年度 75.2 R5年度 73.4 R6年度 72.8)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(R4年度 2.42 R5年度 1.13 R6年度 1.25)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(R4年度 57.1 R5年度 50.0 R6年度 66.7)
- ・令和7年度末の児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に対して肯定的に答える児童の割合を全学年 85%以上にする
(R6年度 86.0)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

道徳の時間を要として、各教科、領域で話し合いやグループ活動で相互理解、共感を広げる心を引き出し、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。

指標

小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

不登校の児童に対して担任だけで対応にあたるのではなく、学校全体で情報共有し外部の関係機関とも連携しながら対応にあたる。

指標

毎週の学年会や月1回の職員連絡会・生活指導部会において子どもの状況を共有し、課題や対応の共通理解を図る。

取組内容③【基本的な方向3 豊かな心の育成】

道徳の指導内容「主として人とかかわりに関すること」の関連性から、望ましい人間関係を構築し、前向きな自己の生き方が自覚できるような子どもの育成を図る。

指標

令和7年度末の児童アンケートで「学校が楽しい」と肯定的に答える児童の割合を全学年 85%以上にする。

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

年度目標

(2) 【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。(R4年度 38.2 R5年度 33.1)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
 [国語] R5年度3年 0.96 → R6年度4年 0.95 -0.01
 R5年度4年 0.97 → R6年度5年 0.99 +0.02
 R5年度5年 1.02 → R6年度6年 0.96 -0.06
 [算数] R5年度3年 1.03 → R6年度4年 0.98 -0.05
 R5年度4年 0.98 → R6年度5年 1.03 +0.05
 R5年度5年 1.11 → R6年度6年 0.98 -0.13
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R6年度 87.2)
- ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。(R6年度 50.2)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

「主体的、対話的で深い学び」の視点で授業づくりをすすめる。

指標

授業研修を伴う校内研修の中で、主体的、対話的で深い学びにつながる指導を5回以上行う。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

算数科の授業力向上を図る。

指標

・算数科『主体的に考え、話し合うことができる算数科指導の在り方』の研究授業を年3回行う。

取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】

体力づくりカードの作成や、大なわ週間や運動能力up週間などの取組を年2回以上実施し、遊びや運動を通した体力づくりを行う。

指標

・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

・理科室の備品を整備、充実させることにより、実験や観察の学習に興味や関心を持って取り組む環境をつくる。

指標

・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 |
|---|
| <p>（３）【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５３．９％以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く） <p>（R6 年度 53.8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を週１回設定する。 |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 |
|--|
| <p>取組内容①【基本的な方向６ 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>デジタル教材等を活用することで、児童の学習への意欲と学力の向上を図る。</p> |
| <p>指標</p> <p>授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）</p> |
| <p>取組内容②【基本的な方向７ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>会議や行事等の見直しを行うことで、業務の軽減化を図る。</p> |
| <p>指標</p> <p>ゆとりの日を週１回設定するとともに、年度初めや学期末を除き、各教職員が週のうち１日は定時退勤する。</p> |